

# 令和6年度 2年 理科 年間指導計画・評価計画

## 1. 目指す生徒像

<p><b>学年末の到達目標（第2学年で重視する学習過程）</b>  「理科の見方・考え方を働かせ、科学的な事象や実験・観察を見通しをもって解決する方法を立案し、結果を分析・解釈する資質・能力を育成する」</p> <p>『知識・技能』自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>『思考・判断・表現』観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>『主体的に学習に取り組む態度』自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
--

## 2. 評価方法

観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	ワークシート 問題集 小テスト 定期テスト	ワークシート 問題集 実験レポート 定期テスト	ワークシート 授業内での問題への取り組み 授業内での発表 提出課題

## 3. 年間指導計画・評価規準

月	単元	時数	学習活動	①	②	③	評価規準（おおむね満足できる B）
4 5 6 7 9 10	<b>化学変化と原子・分子</b>	34	<p><b>1章 物質の成り立ち</b>  ○物質を分解する実験を行い、分解して生成した物質からもとの物質の成分が推定できることを見いだす。  ○物質は原子や分子からできていることを認識する。</p> <p><b>2章 物質の表し方</b>  ○原子や分子を化学式で表す。  ○化学式・化学反応式によって、物質の組成や化学変化を表す。</p> <p><b>3章 さまざまな化学変化</b>  ○2種類の物質が反応して結びつく実験を行い、反応前とは異なる物質が生成することを見いだす。  ○様々な化学変化を原子・分子のモデルや化学反応式を用いて説明</p>	○	○	○	<p>○化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、物質の成り立ち、化学変化、化学変化と物質の質量を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。  <b>【知識・技能】</b></p> <p>○化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現している。  <b>【思考・判断・表現】</b></p> <p>○化学変化と原子・分子に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。  <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p>

			<p>する。</p> <p>○酸化と還元が同時に起きていることや、化学変化に伴う熱の出入りについても認識し、それらが日常生活にも多く利用されていることに気付く。</p>			
4 5 6 7 9 10	<b>生物の体のつくりとはたらき</b>	39	<p><b>1章 生物の体をつくるもの</b></p> <p>○生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていること、および植物と動物の細胞のつくりの特徴を見だし理解する。</p> <p><b>2章 植物の体のつくりとはたらき</b></p> <p>○植物の葉や茎、根のつくりについての観察を行い、それらのつくりと、光合成、呼吸、蒸散のはたらきに関する実験の結果とを関連付けて理解する。</p> <p><b>3章 動物の体のつくりとはたらき</b></p> <p>○消化や呼吸、血液の循環についての観察・実験を行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬しているしくみを観察・実験の結果と関連付けて理解する。</p> <p>○不要となった物質を排出するしくみがあることを理解する。</p> <p><b>4章 動物の行動のしくみ</b></p> <p>○動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、そのしくみを感覚器官、神経および運動器官のつくりと関連付けて理解する。</p>	○	○	<p>○生物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、生物と細胞、植物の体のつくりと働き、動物の体のつくりと働きを理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 【知識・技能】</p> <p>○身近な植物や動物の体のつくりと働きについて問題を見だし、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見だして表現している。 【思考・判断・表現】</p> <p>○生物の体のつくりと働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】</p>
10 11 12 1 2 3	<b>電流とその利用</b>	37	<p><b>1章 電流の性質</b></p> <p>○回路の基本的な性質や、電圧と電流の関係について規則性を見いださせるとともに、実験機器の操作や実験結果の処理についての技能を習得する。</p>	○		<p>○電流、磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、電流、電流と磁界を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 【知識・技能】</p>

			<p><b>3章 電流と磁界</b> ○日常生活と関連付けながら、電流の磁気作用や電流と磁界との相互作用を理解し、直流と交流の違いを捉える。</p> <p><b>2章 電流の正体</b> ○日常生活と関連付けながら静電気の性質について調べさせ、静電気と電流には関係があることを見だし、真空放電の実験から、電流の正体について理解する。</p>	○	<p>○電流、磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働き、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現している。 【思考・判断・表現】</p> <p>○電流とその利用に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】</p>
10 11 12 1 2 3	<b>地球の大気と天気の変化</b>	30	<p><b>1章 地球をとり巻く大気のように</b> ○地表にあるもののすべてに大気圧がはたしていることを理解させ、身のまわりの大気の状態を認識させる。また、身のまわりの大気の状態を継続的に観測させて、気象要素の変化と天気の変化の関係を見いだす。</p> <p><b>2章 大気中の水の変化</b> ○霧や雲のでき方を、空気中の水の変化と関連づけて理解する。 ○地球上の水がさまざまな状態で存在し、霧、雲、雨や雪はその循環の一部であることを認識する。</p> <p><b>3章 天気の変化と大気の動き</b> ○気圧配置によって、大気の動きが生じることを理解する。 ○日本付近の高気圧や低気圧の移動と、それに伴う天気の変化を、地球規模の大気の動きの一部として捉える。</p> <p><b>4章 大気の動きと日本の四季</b> ○大陸と海洋の温度差</p>	○	<p>○気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象観測、天気の変化、日本の気象、自然の恵みと気象災害を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 【知識・技能】</p> <p>○気象とその変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現している。 【思考・判断・表現】</p> <p>○気象とその変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】</p>

		<p>によって生じる大気の動きが、日本の気象に影響を与えることを理解する。</p> <p>○日本付近で盛衰する3つの気団と関連づけながら、日本の四季の天気の特徴とそれが生じるしくみを理解する。</p>				
--	--	--	--	--	--	--